

学習計画（シラバス）の目的および活用法

1. 作成・発行の目的

将来の大きな夢や進路目標を抱いて川内高校に入学してきた諸君の、今年度の新たな学校生活がスタートしました。今まで培ってきたものを糧とした上で、過去の自分自身の進路意識や学習に対する取組を振り返り、新年度における目標と努力すべきことを再度真剣に考えて、決意新たに学習活動に取り組んで欲しいものです。

さて、3年間の高校生活を通して学習内容を本当に理解し身につけるためには、自主的な姿勢、「自ら学ぶ」姿勢が必要不可欠です。そのためにも、まず将来を見通した人生設計をし、具現化させるために何をすべきかを冷静に考えてみましょう。自ずと毎日の学習にも意義を見いだすことができ、自発的な取組にも繋がると思います。大切なことは、何事にも「前向き」であること、そして「継続する」ことです。以上のことを常に心に留めておけば、悩み・苦しみながらも、級友たちと共に貴重な高校生活を送ることができるはずです。そして高校3年間の最後の集大成とも言うべき“受験”という厳しい現実も、この心構えを実践することで、必ずや乗り越えられると思います。

この学習計画（シラバス）は、川内高校での学習内容を確認してもらうと同時に、今年度1年間を見通した学習活動計画をまとめたものです。以下の点に留意しながら、「自ら学ぶ」姿勢をもって、この1年を充実したものにして、自分の夢を実現して欲しいと心から期待します。

2. 内容・構成

- (1) 各学年の今年度分のシラバスが掲載されています。
- (2) 川内高校における3年間の学習の流れを見通すことができます。
- (3) 今年度の学習計画を、諸考査計画を含めて、1年間を見通して示してあります。
- (4) 各教科・科目の学習方法及び学習内容・到達目標等が詳細に記されており、自己評価もできます。

3. 効果的な活用法

この「学習計画（シラバス）」を活用して、自分の学習習慣を確立し、学力を向上させるため、次の点に留意しよう。

(1) 高校における学習の基本的な心構え

学習の基本的な心構えを認識し、今年1年間の学習活動につなげよう。

(2) 各教科・科目の学習計画・内容等

留意事項は以下の通り。

・[年間学習計画]

今年1年間の学習内容と流れをつかみ、学習や進路に対する自身の目標をしっかり意識しよう。

・[学習内容]

各教科・科目における具体的な学習内容を示してある。教科書を中心にしながら、副教材やプリントなど授業で学習する内容を事前に知ること、予習に役立てることができる。

・[学習方法・心構え]

学習を効果的に進めるためのポイント。我流の学習ではなく、その教科・科目の効果的な学習方法を身につけること。真摯な態度、地道な努力を継続することが、学力向上に繋がる。

・[到達目標]

必ず理解しなければならない具体的な事項を示してある。具体的な目標を意識して学習に取り組むことは、予習や復習の必要性を自覚することにもなり、学習内容を理解するために重要なことである。定期考査をはじめ、諸考査やテストは、この目標への到達度を測るために行われるのはいうまでもない。

・[自己評価]

上記の到達目標に対して、理解できたかどうか、具体的な項目について自分で評価してみよう。自分の学習状況を自己点検することは、考査前や模試の直前チェックにも役立つなど、向上心を一層高揚して学習意欲を高めることになる。

<授業が基本>

高校での勉強の中心は何と言っても授業である。毎日の授業を大切にし、教科書を完全にマスターすれば目的は必ずや達成される。授業をおろそかにして、我流の勉強をすることは時間の浪費でしかない。常に謙虚な気持ちを持ち、素直に先生方の指導に従おう。

(1) 高校の学習は予習が必須条件

小中学校時代から聞き慣れた「予習」の意義を再度考えてみよう。人は長時間の緊張にはなかなか耐えられないものである。本校では1日6～7時間の授業がある。予習の段階で、理解できる箇所と理解できない箇所、及び疑問点を明確にした上で授業に臨む習慣を身につけること。そうすることが結果的に時間の節約になると同時に、授業にも集中できる。教科書ガイドや友人のノートを写すといった楽な予習の愚かさを、理解できていない生徒はいないはずである。

「自力で問題を解決する力」は、日々の予習の習慣を通して身につけることができるものであり、一朝一夕にして成しうるものではない。予習の段階での疑問点をそのままにして授業に臨むのではなく、自分なりに精一杯考えること。現在の高校生に一番求められている部分である。

(2) 授業の受け方

上記の予習ができていれば、授業中は「どうしてだろう」という問題解決への積極的な姿勢で緊張感が張りつめているはずである。予習でも授業でも、理解できなかった箇所は教科担任に質問し、必ずその日のうちに解決するように努めよう。

(3) 復習について

確実な学力を身につけるための要件として「予習」・「授業」と同様に重要なのが「復習」である。

①暗記を必要としない学問は一つとしてない。とにかく、繰り返し覚えることである。

②「予習」・「授業」で理解したことが本当に身に付いているかどうか確認するために「練習問題」に当たって理解を深め、応用力の養成に努めよう。こうした自発的な学習が最も望ましい学習であり、真の学力を身につける一番の近道である。地道な努力無くして栄光はあり得ない。

<読書力と文章力の養成について>

教室で学ぶ知識事項は反復学習で確実に身につけなければならないが、それと同じくらい大切なことに「読書によって自分独自の教養世界」をつくることが挙げられる。大学入試では論文試験が主流になりつつある。様々なことについての知識を持つと同時に、自分なりの考えを表現する力・相手に伝える力が求められている。こうした力を身につけるために、本や新聞を読む時間を確保し、文章の要旨や自分なりの考えをまとめる習慣を身につけることが大切である。

学習指導要領に基づく学習評価について

本校で目指す教育を明示した「スクールポリシー」の理念に沿い、学習指導要領に基づく学習評価として以下のような観点別学習評価(以下、観点別評価という)を行います。

【観点別評価について】

各教科の教育活動については、シラバスにより大まかな流れ、各単元の学習計画により詳細を説明することになります。

1 観点別評価の目的

- (1) 学習の進歩の状況や良い点などを積極的に評価し、学習したことの意義や価値を実感できるようにする。
- (2) 各教科・科目等の目標の実現に向けた学習状況を把握するために、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通して、場面や方法を工夫しながら学習の過程や成果を評価し、指導の改善や学習意欲の向上と資質・能力の育成を図る。

2 学習評価の方法

①「知識・技能」②「思考・判断・表現」③「主体的に学習に取り組む態度」の3観点別に評価基準を定め、いずれも目標に準拠して、「A(十分満足できる)」、「B(概ね満足できる)」、「C(努力を要する)」の3段階で評価します。

観 点	評価のポイント	評価の材料
「知識・技能」	・各教科・科目における学習の過程を通じた知識及び技能の習得状況。 ・既有的知識及び技能と関連付けたり活用したりする中で、他の学習や生活の場面でも活用できる程度に概念等を理解したり、技能を習得したりしているか。	定期考査・小テスト・振り返りシート等
「思考・判断・表現」	・各教科・科目の知識及び技能を活用して、課題を解決する等のために必要な思考力、判断力、表現力等を身に付けているか。	定期考査・パフォーマンステスト・ワークシート・ノート・発表・報告等
「主体的に学習に取り組む態度」	・知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりするために、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整しながら、学ぼうとしているか。	授業や課題に取り組む姿勢・パフォーマンステスト・学習課題帳の提出等

【評定について】

評定については、高等学校学習指導要領に示す各教科・科目の目標に基づき定めた、当該教科・科目の目標や内容に照らして、その実現状況を総括的に次のように区分して評価します。

「十分満足できるもののうち、特に程度が高い」状況と判断されるもの	5
「十分満足できる」状況と判断されるもの	4
「おおむね満足できる」状況と判断されるもの	3
「努力を要する」状況と判断されるもの	2
「努力を要すると判断されるもののうち、より努力が必要」な状況と判断されるもの	1



鹿児島県立川内高等学校

スクール・ミッション及びスクール・ポリシー

スクール・ミッション

薩摩川内市にある歴史と伝統ある普通科高校として、グローバルな視点で物事を考える力を身に付けさせ、変化の激しい未来をしなやかに生き抜く力を育み、生徒の可能性を最大限に伸ばし、他者と協働し積極的に社会貢献できる人材を育成する学校を目指します。

教育目標

憲法及び教育基本法の精神を基に、「自律・敬愛・剛健」の校訓を人格形成の基本理念として、文武両道への取組を通して「知・徳・体」の調和がとれた、心豊かで、たくましく、国際的視野に立って主体的・創造的に生きる人間の育成を図る。

「確かな学力」「豊かな人間性」「変化の激しい未来を生きる力」の育成を目指す。

校訓

自 律

敬 愛

剛 健

目指す生徒像

高い目標を掲げ、自らを律し、主体的に考え行動できる生徒

人間性豊かで、積極的に他者と協働し、社会貢献をしようとする生徒

気力・体力・活力に満ち、粘り強く自己実現を目指す生徒

スクール・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー（こんな資質・能力を育成します！）

- ① グローバルな視点で物事を考え、自ら判断し主体的に行動できる人材を育成する。
- ② 人間性豊かで多様な価値観を尊重し、他者と協働し積極的に地域や社会の発展に貢献できる人材を育成する。
- ③ 知力と体力をそなえ、生涯にわたって意欲的に学び続け、積極的に未来を切り開こうとする人材を育成する。

探究力（追求力）

思考力

実行力

自己肯定感

多様な個性を尊重する態度

社会貢献

健康増進力

コミュニケーション力

俯瞰力

カリキュラム・ポリシー（こんな教育活動を展開していきます！）

- ① 人権教育を全ての教育の基本とし、家庭・地域及び関係機関と連携を図りながら、生徒の「生きる力」と「自他ともに尊重する心」を育成する教育活動を展開する。
- ② 生徒の学力向上と進路実現のために、学びの先を見据えた指導を展開する。
- ③ 文武両道の精神の下に教育環境の整備・充実に努め、部活動や学校行事等への積極的な取組を通して、心身の健全な育成を図る。

アドミッション・ポリシー（こんな生徒を待っています！）

- ① 本校の教育方針をよく理解し、志望の動機と将来への目的意識がはっきりとしている生徒
- ② 基本的な生活習慣を身につけており、自らを律し他者を尊重し、けじめのある生活を送ることのできる生徒
- ③ 知的好奇心や探究心が旺盛で、主体的に粘り強く学習に取り組むことのできる生徒
- ④ 学校行事、部活動、生徒会活動、地域活動に積極的に取り組み、リーダーシップを発揮することのできる生徒

科 目	現代の国語	学 年	1 年	単位数	2 単位
学習の到達目標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して国語的的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。 (2)論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 (3)言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。				

【使用教材】

教科書・副教材	課題帳等
〈教科書〉『現代の国語』（東京書籍） 〈副教材〉漢字問題集	・休日課題問題集 ・教材プリント類

【目指す能力と評価について】

★は川内高校グランドデザイン(育てたい資質・能力)との結びつき

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けている。	「話すこと」「聞くこと」「書くこと」「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方・感じ方・考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしていけるとともに、読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもとうとしている。
評価方法	定期考査・小テスト・振り返りシート等	定期考査・パフォーマンステスト・ワークシート・ノート・発表・報告等	授業や課題に取り組む姿勢・パフォーマンステスト・学習課題帳の提出等
★	探究力	思考力 コミュニケーション力	探究力 実行力

【学習内容】

【アドバイス】

学期	月	学習内容等	付けたい力
1 学 期	4	・探究 【話す・聞く】本を紹介する	・「対比」や「具体と抽象」等の論の展開を理解し、自分の考えを述べる上で役立てることができる。 ・事実を基に意見を述べたり、テーマに対して推論したりする展開を理解し、自分の考えを述べる上で役立てることができる。
	5	・読解1 【文化】「水の東西」山崎正和	
	6	・探究1 【書く】新聞記事をもとに問いを作り、意見をまとめる	
	7	・読解2 【社会】『身銭』を切るコミュニケーション」内田樹 ・探究2 【話す・聞く】メディアを適切に使い分けながら、情報を収集する	
2 学 期	9	・読解3 【時間】「時間と自由の関係について」内山節	・複数の意見や資料を読み取り、分析した上で自分の考えを持つ事ができる。
	10	・探究3 【書く】異なる主張の文章を読み比べて自分の意見を書く	
	11	・読解4 【哲学】「真の自立とは」鷲田清一	
	12	【福祉】「自立と紙上」松井彰彦	
3 学 期	1	・読解5 【環境】「生物の多様性とは何か」福岡伸一	
	2	・探究4 【書く】論証してレポートを書く	
	3	・読解6 【倫理】「暇と退屈の倫理学」國分功一郎 ・探究4 【話す・聞く】探究したことを発信する	

◇1年生で学ぶ国語の授業は、中学校の国語の続きと言ってもよいが、扱う内容に対して、より深い理解が要求される。国語の時間が「聞くこと・読むこと・話すこと・書くこと」の四つの言語能力を高め、読解力や思考力・表現力を培う貴重な時間であることを認識すること。

◇予習や復習、宿題等にしつかりと取り組むこと。

◇忘れ物をせず、授業を真剣に受けること。

◇考査受験後、解けなかった問題は訂正し、確実に理解すること。

◇日頃から、新聞を読んだり読書をしたりして、様々な情報を取捨選択する能力を身に付け、語彙を増やしていくこと。

※各単元の学習内容や評価の詳細については、後日示します。

科 目	言語文化	学 年	1 年	単位数	3 単位
学習の到達目標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。				

【使用教材】

教科書・副教材	課題帳等
〈教科書〉『言語文化』（数研出版） 〈副教材〉古文単語 古文文法 漢文句形	・休日課題問題集 ・教材プリント類

【目指す能力と評価について】

★は川内高校グランドデザイン(育てたい資質・能力)との結びつき

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けているとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めている。	「書くこと」「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもとうとしている。
評価方法	定期考査・小テスト・振り返りシート等	定期考査・パフォーマンステスト・ワークシート・ノート・発表・報告等	授業や課題に取り組む姿勢・パフォーマンステスト・学習課題帳の提出等
★	探究力	思考力 コミュニケーション力	探究力 実行力

【学習内容】

【アドバイス】

学期	月	学習内容等	付けたい力	
1 学 期	4	・古文【説話】「宇治拾遺物語」	・古文・漢文・文学的文章を読むための基礎知識を身に付け、文章を読み解くことができる。 ・文章から、作者の考えや書かれた時代について理解できる。 ・やや長目の文章を読み、内容や展開、主張を的確に捉えることができる。 ・唐詩や和歌の表現や技法を理解し、観賞することができる。	〈予習のしかた〉 ①教科書をしっかりと読む。 ②古文については、本文をノートに写し、古語辞典でわからない単語の意味を調べながら、自分なりの口語訳をする。 ③漢文については、白文・書き下し文をノートに書き、漢和辞典でわからない単語の意味や句法を調べながら、自分なりの口語訳をする。 〈復習のしかた〉 ①予習の時点でわからなかったところが、理解できたか確認する。 ②授業で学んだ内容を再度確認する。 ③教科書に出てきた内容と関連するいろいろな本を探して、発展的な読書を心がける。 ④考査受験後、解けなかった問題は訂正し、確実に理解する。
	5	・漢文【入門】「漢文入門」		
	6	・文学【近代小説】「羅生門」芥川龍之介		
	7	・古文【物語】「竹取物語」 ・漢文【故事】「故事成語」 ・古文【和歌】「万葉集」「古今和歌集」「新古今和歌集」		
2 学 期	9	・古文【随筆】「枕草子」「徒然草」	・文章から、作者の考えや書かれた時代について理解できる。 ・やや長目の文章を読み、内容や展開、主張を的確に捉えることができる。 ・唐詩や和歌の表現や技法を理解し、観賞することができる。	〈予習のしかた〉 ①教科書をしっかりと読む。 ②古文については、本文をノートに写し、古語辞典でわからない単語の意味を調べながら、自分なりの口語訳をする。 ③漢文については、白文・書き下し文をノートに書き、漢和辞典でわからない単語の意味や句法を調べながら、自分なりの口語訳をする。 〈復習のしかた〉 ①予習の時点でわからなかったところが、理解できたか確認する。 ②授業で学んだ内容を再度確認する。 ③教科書に出てきた内容と関連するいろいろな本を探して、発展的な読書を心がける。 ④考査受験後、解けなかった問題は訂正し、確実に理解する。
	10	・漢文【史伝】「十八史略」		
	11	・文学【現代小説】「サラバ！」西加奈子		
	12	・古文【歌物語】「伊勢物語」 ・漢文【漢詩】「中国の詩」 ・文学【近代小説】「城の崎にて」志賀直哉		
3 学 期	1	・古文【日記文学】「土佐日記」	・思索的な文章を読み、作者の考えを的確に捉えることができる。	※各単元の学習内容や評価の詳細については、後日示します。
	2	・漢文【思想】「論語」「孟子」		
	3	・文学【近代小説】「山月記」中島敦 ・漢文【文章】「雑説」 ・古文【軍記物語】「平家物語」		

科 目	地理総合	学 年	1 学年	単位数	2 単位
学習の 到達目標	社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。 (2) 地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。 (3) 地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとするものの大切さについての自覚などを深める。				

【使用教材】

教科書・副教材	課題等
(教)『高等学校 新地理総合』(帝国書院),『新詳高等地図』(帝国書院) (副)『新詳地理資料 COMPLETE 2025』(帝国書院) 『新 地理の研究』(啓隆社) ※授業中に補足プリントや資料等を適宜配布する。	(特に指定する教材はない) ※長期休業中の課題等については授業中に別途指示する

【目指す能力と評価について】

	目指す能力・評価の観点	主な評価方法
知識・技能	①情報手段の特性や情報の正しさなどに留意しながら情報を正しく収集することができる。 ②収集した情報を全体の傾向性や取捨選択、複数の情報の関連性・共通性や創意性などに注意して読み取ることができる。 ③基礎的な情報、資料を基に自分の尺度で分類・整理し、他の人に分かりやすくまとめることができる。	a. 定期・実力考査 b. 単元ごとの評価課題 c. 課題やノート等の提出 d. まとめ作品や発表の内容
思考・判断・表現	①一次情報を基にして思考を高めることができる。 ②すぐに解答できないこと、答えが存在しない問いに対して自らの知識や得られた情報を基に粘り強く思考することができる。 ③一般的な価値尺度に加え、自らの価値基準を用いて情報や事項の真偽を判断することができる。 ④自らの思考・判断の過程を適切な手段や表現方法で他人に分かりやすく伝えることができる。	a. 定期・実力考査 b. 単元ごとの評価課題 c. 課題やノート等の提出 d. 授業中の発表内容
主体的に学習に取り組む態度	①1つの情報だけに依拠せず、複数の情報を得て自らの思考や判断の材料を増やし、補強しようとしている。 ②与えられた情報のみにとどまらず、より広範な観点から課題解決に取り組もうとしている。 ③将来を担う一員としての自覚を持ち、地理的な見方・考え方を通した真偽や公正・正義などの判断尺度を持とうとしている。	a. 授業中の発表内容 b. 課題への取組・提出状況 c. 考査等への取組状況
川内高校グランド デザインとの関連	知識・技能	思考力, 実行力
	思考・判断・表現	思考力, コミュニケーション力, 自己肯定感
	主体的に学習に取り組む態度	実行力, 多様な個性を尊重する態度, 俯瞰力, 社会貢献

【学習内容】 ※月と配当時間は目安

	月	時間	指導内容・考査計画
1 学 期	4	4	第1部 地図でとらえる現代世界 第1章 地図と地理情報システム 1 地球上の位置と時差 / 2 地図の役割と種類
	5	4	第2章 結び付きを深める現代世界 1 現代世界の国家と領域 / 2 グローバル化する世界
	67	10	第2部 国際理解と国際協力 第1章 生活文化の多様性と国際理解 1 世界の地形と人々の生活 1学期末考査
2 学 期	78	8	2 世界の気候と人々の生活 【事例選択学習】 ※教科書の第2部 第1章 第3～4節の中から選択して学習 (3 世界の言語・宗教と人々の生活 / 4 歴史的背景と人々の生活)
	9	2～3	■ 宗教…イスラームと人々の生活の関わり ―中央アジア・西アジア・北アフリカー
		2～3	■ 歴史…移民の歴史と人々の生活の関わり ―ラテンアメリカ 2学期中間考査
			※上記以外の事例（下記）も年度内に時間があれば取り扱う □自然；乾燥した大陸と太平洋の島々での生活 ―オセアニア □宗教；ヒンドゥー教と人々の生活の関わり ―インド □歴史；植民地支配の歴史と人々の生活の関わり ―サハラ以南アフリカー 国家体制の変化と人々の生活の関わり ―ロシア
	10	5	5 世界の産業と人々の生活
	11	4	第2章 地球的課題と国際協力 1 複雑に絡み合う地球的課題 / 2 地球環境問題 2学期末考査
3 学 期		5	3 資源・エネルギー問題 / 4 人口問題 / 5 食料問題
	1112	2	6 都市・居住問題 ※3学期へ継続
	1	2	6 都市・居住問題 第3部 持続可能な地域づくりと私たち 第1章 自然環境と防災 1 日本の自然環境 / 2 地震・津波と防災 / 3 火山災害と防災
	1	3	4 気象災害と防災 学年末考査
	2	3	5 自然災害への備え
3 学 期		1	第2章 生活圏の調査と地域の展望 1 生活圏の調査と地域の展望
	3	6	

【学習上のアドバイス】

- ① 教材の忘れ物を絶対にしない。毎回の授業を大切にしましょう。課題の提出を指示された場合は、必ず記名して、切厳守で提出する。未提出や無断での遅延には厳しく対処します。
 - ② 授業での理解が第一です。授業があった日に家で「その日の授業内容が再現できるか」「他人に『こういう授業内容だったよ』と伝えられるか」ができていればOK。（予習→）授業→復習を徹底する。
 - ③ 長期休業中や考査前以外に特別な課題等を課すことはありませんが、②が徹底されず、定着が悪いと教科担当が判断した場合はその都度、個人・学級単位で特別課題を課すことがあります。この課題の取組・提出は評価に算入するものとします。
 - ④ 語句の丸暗記では考査や模試、共通テストに対応できません。暗記中心の学習ではなく、理解を中心とした学習の確立に努めましょう。
- ※ その他、疑問点等があれば教科担任に質問してください。

科 目	歴史総合	学 年	1 学年	単位数	2 単位
学習の 到達目標	社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。 (2)近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推察、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。 (3)近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。				

【使用教材】

教科書・副教材	課題等
(教)『現代の歴史総合 ～みる・読みとく・考える～』(山川出版社) (副)『現代の歴史総合 ノート』(山川出版社) (副)『新歴史総合 研究ノート』(啓隆社) ※授業中に適宜、補足プリント等を配布することがある	・小テスト等の実施 (その他授業時に指示あり) ＊長期休業中の課題等については別途指示する

【目指す能力と評価について】

	目指す能力・評価の観点	主な評価方法
知識・技能	①近現代の歴史について、世界とその中の日本の相互作用やそれぞれの独自性、共通性から過去と現在を考察することができる。 ②世界とその中の日本に存する様々な現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解することができる。 ③情報を収集する技能、収集した情報を歴史的な見方・考え方を働かせて読み取る技能、読み取った情報を課題解決に向けてまとめる技能を身に付けることができる。	a. 定期・実力考査 b. 単元ごとの評価課題 c. 課題やノート等の提出 d. まとめ作品や発表の内容
思考・判断・表現	①時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりといった、社会的事象の歴史的な見方・考え方ができる。 ②概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりすることができる。 ③考察、構想したことを論理的に説明する力、効果的に論述する力、他者の主張を踏まえて再構築しながら議論する力が持てる。	a. 定期・実力考査 b. 単元ごとの評価課題 c. 課題やノート等の提出 d. 授業中の発表内容
主体的に学習に取り組む態度	①歴史に関わる諸事象について、自らが関心をもって、多面的・多角的な考察や、深い理解を伴う学習に取り組もうとしている。 ②与えられた情報のみにとどまらず、より広範な観点から課題解決に取り組もうとしている。 ③日本の歴史への愛情や、他国や他国の文化を尊重する大切さを自覚し、国際社会の平和と発展に寄与する意識を持とうとしている。	a. 授業中の発表内容 b. 課題への取組・提出状況 c. 考査等への取組状況
川内高校グランド デザインとの関連	知識・技能	思考力、実行力
	思考・判断・表現	思考力、コミュニケーション力、自己肯定感
	主体的に学習に取り組む態度	実行力、多様な個性を尊重する態度、俯瞰力、社会貢献

【学習内容】

	月	時間	指導内容・考査計画
1 学 期	4	2	歴史の扉 ①歴史と私たち ②歴史の特質と資料
			第Ⅰ部 近代化と私たち
	4	4	第1章 結びつく世界と日本の開国
	5	9	第2章 国民国家と明治維新
	6	2	【テーマ学習】近代化と現代的な諸課題
2 学 期		3	第Ⅱ部 国際秩序の変化や大衆化と私たち
			第3章 総力戦と社会運動 (「1 第一次世界大戦の展開」～「3 ヴェルサイユ体制とワシントン体制」)
		1	1 学 期 末 考 査
	7	6	(「4 世界経済の変容」～「7 消費社会と大衆文化」)
	8	3	第4章 経済危機と第二次世界大戦
	9	5	(「1 世界恐慌の時代」～「5 第二次世界大戦化の社会」)
	10	1	2 学 期 中 間 考 査
		4	(「6 国際連合と国際経済体制」～「9 日本の独立と日米安全保障条約」)
		2	【テーマ学習】国際秩序の変化や大衆化と現代的な諸課題
			第Ⅲ部 グローバル化と私たち
3 学 期	11	8	第5章 冷戦と世界経済 (「1 冷戦下の地域紛争と脱植民地化」～「4 地域連携の形成と展開」)
	12	1	2 学 期 末 考 査
		3	(「5 計画経済とその波及」～「7 アジアの中の戦後日本」)
	1	2	第6章 世界秩序の変容と日本
	2	5	(「1 石油危機」～「5 冷戦の終結とソ連の崩壊」)
		1	学 年 末 考 査
	3	5	(「6 現代の東アジア」～「10 現代と私たち」)
		2	【テーマ学習】現代的な諸課題の形成と展望

【学習上のアドバイス】

- ① 教材の忘れ物を絶対にしない。毎回の授業を大切にしましょう。課題の提出を指示された場合は、必ず記名して〆切厳守で提出する。未提出や無断での〆切遅れには厳しく対処します。
 - ② 授業での理解が第一です。授業があった日に家で「その日の授業内容が再現できるか」「他人に『こういう授業内容だったよ』と伝えられるか」ができていればOKです。また、予習は特に必要ありません。授業→復習を徹底する。
 - ③ 長期休業中や考査前以外に特別な課題等を課すことはありませんが、②が徹底されず、定着が悪いと教科担当が判断した場合はその都度、個人・学級単位で特別課題を課すことがあります。この課題の取組・提出は評価に算入するものとします。
 - ④ 語句の丸暗記では考査や模試、共通テストに対応できません。暗記中心の学習ではなく、理解を中心とした学習の確立に努めましょう。
- ※ その他、疑問点等があれば教科担当に質問してください。

科 目	数学Ⅰ	学 年	1 年	単位数	3 単位
学習の到達目標	数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 数と式、図形と計量、二次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。 (2) 命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力、図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を養う。 (3) 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。				

【使用教材】

教科書・副教材	課題帳等
「高等学校 数学Ⅰ」（数研出版）	「類比問題集ⅠA」 ※参考書は、入学後決定

【目指す能力と評価について】

★は川内高校グランドデザイン(育てたい資質・能力)との結びつき

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点	- 数と式、図形と計量、二次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 - 事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりすることに関する技能を身に付けている。	命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力、図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を身に付けている。	- 数学のよさを認識し数学を活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。 - 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。
評価方法	小テスト 定期考査	小テスト 定期考査 ワークシート（レポート）	ノート ワークシート 振り返りシート 授業態度
★	探究力(追求力)	思考力・俯瞰力・コミュニケーション力	実行力・自己肯定感

【学習内容】

【アドバイス】

学期	学 習 内 容 等	主な考査
1 学期	第1章 式と計算 第2章 集合と命題 第3章 2次関数 第5章 データの分析	学びの基礎診断 第2回実力考査（中間考査） 1学期期末考査 第3回実力考査
2 学期	第4章 図形と計算	2学期中間考査 学びの基礎診断 2学期期末考査
3 学期		第5回実力考査 学年末考査

・基礎作りの大切な時期である。予習・復習を欠かさず、授業に全力で集中する。

・自分の頭で考え、自分の力で解く姿勢をもち、積極的な学習習慣を身につける。

・自宅での学習は少なくとも1時間以上確保すること。

※各単元の学習内容や評価の詳細については、後日示します。

科 目	数学Ⅱ	学 年	1 年	単位数	1 単位
学習の到達目標	数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) いろいろな式の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。 (2) 数の範囲や式の性質に着目し、等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。 (3) 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。				

【使用教材】

教科書・副教材	課題帳等
「高等学校 数学Ⅱ」（数研出版）	※参考書は、入学後決定

【目指す能力と評価について】

★は川内高校グランドデザイン(育てたい資質・能力)との結びつき

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点	- いろいろな式の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 - 事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりすることに関する技能を身に付けている。	数の範囲や式の性質に着目し、等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を身に付けている。	- 数学のよさを認識し数学を活用しようとしたり、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。 - 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。
評価方法	小テスト 定期考査	小テスト 定期考査 ワークシート（レポート）	ノート ワークシート 振り返りシート 授業態度
★	探究力(追求力)	思考力・俯瞰力・コミュニケーション力	実行力・自己肯定感

【学習内容】

【アドバイス】

学期	学 習 内 容 等	主な考査
1 学期		学びの基礎診断 第2回実力考査（中間考査） 1 学期期末考査 第3回実力考査
2 学期		2 学期中間考査 学びの基礎診断 2 学期期末考査
3 学期	第1章 式と証明 第2章 複素数と方程式	第5回実力考査 学年末考査

・基礎作りの大切な時期である。予習・復習を欠かさず、授業に全力で集中する。

・自分の頭で考え、自分の力で解く姿勢をもち、積極的な学習習慣を身につける。

・自宅での学習は少なくとも1時間以上確保すること。

※各単元の学習内容や評価の詳細については、後日示します。

科 目	数学A	学 年	1 年	単位数	1 単位
学習の到達目標	数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 図形の性質、場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と人間の活動の関係について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。 (2) 図形の構成要素間の関係などに着目し、図形の性質を見だし、論理的に考察する力、不確実な事象に着目し、確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力、数学と人間の活動との関わりに着目し、事象に数学の構造を見だし、数理的に考察する力を養う。 (3) 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。				

【使用教材】

教科書・副教材	課題帳等
「高等学校 数学A」(数研出版)	「類比問題集ⅠA」 ※参考書は、入学後決定

【目指す能力と評価について】

★は川内高校グランドデザイン(育てたい資質・能力)との結びつき

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点	- 図形の性質、場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 - 数学と人間の活動の関係について認識を深めている。 - 事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりすることに関する技能を身に付けている。	図形の構成要素間の関係などに着目し、図形の性質を見だし、論理的に考察する力、不確実な事象に着目し確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力、数学と人間の活動との関わりに着目し、事象に数学の構造を見だし、数理的に考察する力を身に付けている。	- 数学のよさを認識し数学を活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。 - 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。
評価方法	小テスト 定期考査	小テスト 定期考査 ワークシート (レポート)	ノート ワークシート 振り返りシート 授業態度
★	探究力(追求力)	思考力・俯瞰力・コミュニケーション力	実行力・自己肯定感

【学習内容】

【アドバイス】

学期	学 習 内 容 等	主な考査
1 学期	第 1 章 場合の数と確率 第 2 章 図形の性質 第 3 章 数学と人間の活動	学びの基礎診断 第 2 回実力考査 (中間考査) 1 学期期末考査 第 3 回実力考査
2 学期		2 学期中間考査 学びの基礎診断 2 学期期末考査
3 学期		第 5 回実力考査 学年末考査

・基礎作りの大切な時期である。予習・復習を欠かさず、授業に全力で集中する。

・自分の頭で考え、自分の力で解く姿勢をもち、積極的な学習習慣を身につける。

・自宅での学習は少なくとも 1 時間以上確保すること。

※各単元の学習内容や評価の詳細については、後日示します。

科 目	科学と人間生活	学 年	1 年	単位数	2 単位
学習の到達目標	自然と人間生活との関わり及び科学技術が人間生活に果たしてきた役割について、身近な事物・現象に関する観察、実験などを見通しをもって行うことを通して理解し、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を育成する。				

【使用教材】

教科書・副教材	課題帳等
科人 702 「科学と人間生活」（実教出版） 「科学と人間生活の基礎知識」（実教出版）	

【目指す能力と評価について】

★は川内高校グランドデザイン(育てたい資質・能力)との結びつき

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点	自然と人間生活との関わり及び科学技術と人間生活とのかかわりについて理解を深めるとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けている。	人間生活と関連のある自然の事物や現象の中に問題を見出し、見通しをもって実験・観察・調査などを行うとともに、ものごとを実証的・論理的に考察したり分析したりすることにより、総合的に判断し、それを表現することができる。	自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度が養われている。自然の原理・法則や科学技術の発展と人間生活との関わりについて社会が発展するための基盤となる科学に対する興味・関心を高めようとしている。
評価方法	授業態度、課題提出、定期考査、発問評価、小テスト		
★	探求力(追求力)	思考力, 実行力	コミュニケーション力, 実行力

【学習内容】

学期	月	学習内容	評価の観点			評価規準(評価方法)
			知	思	態	
第1学期	4	1章 科学と技術の発展			○	・科学の発展の歴史に興味をもち、人間生活を支える技術が科学とどのように関わって発展してきたか、意欲的に学習しようとする。(授業態度)
		1.科学と技術の始まり				
		2.海 —深海を科学の眼で見よう—		○		・現代の科学技術について歴史的な経緯を踏まえ、人間と科学技術の関係における問題点を考えて、将来に向けての展望を持つとともに、それを表現することができる。(発問評価)
		3.土 —農業を通して考える—	○	○		・海洋について進められている研究・開発の概要を理解し、日本における海洋研究の意義や役割を考察することができる。(課題提出)
			○	○		・農業における微生物の役割や化学肥料の開発における尿素の合成など、科学技術の発展に観察、実験が果たした役割についてまとめることができる。(課題提出)
	4 5 6	2章 物質の科学				・科学技術はさまざまな努力によって築き上げられたものであることを理解している。また、科学技術は人間生活を豊かにする、使い方を誤ると人類の将来だけでなく地球全体にも大きな影響を及ぼすことを理解している。(定期考査)
		1 節 材料とその再利用			○	・私たちの生活に役立っている金属・プラスチック・セラミックスについて、どのような性質が製品として利用されているかを学び、さらによりよい生活のために改良すべき点はないか意欲的に学習しようとする。(授業態度)
		1.生活の中のさまざまな物質				
		2. 金属		○		・天然にある素材と人工的に作り出した素材が日常生活の中でどのように使われているかを考え、表現することができる。(発問評価)
		3. プラスチック				
		4. セラミック				
		特集 リサイクル	○			・原子の構造、化学結合について理解しており、物質の性質と関係していることを理解している。(定期考査)

第2学期					・身近にある金属・プラスチック・セラミックスの種類，性質に関して簡単にできる観察 ○・実験(加熱・溶解など)の技能を習得し，その結果を的確にまとめ，構造や成分の違いに関して考察することができる。(課題提出)
			○		・身の回りの金属・プラスチック・セラミックスについてその製造法や資源の再利用について理解している。(定期考査)
			○		・それぞれの材料の特徴を把握し，安全で快適な生活のための利用法を理解している。(定期考査)
	3 章 生命の科学			○	・ヒトの生命現象と生活との関連に興味・関心をもち，意欲的に学習しようとしている。(授業態度)
	1 節 ヒトの生命現象				
	特集 生物としてのヒト				
	1. 私たちの生活環境と眼	○	○		・眼の構造と働きについて理解しており，観察・実験の結果や考察を自分の言葉で表現することができる。(課題提出)
	2. ヒトの生命活動と健康の維持			○	・眼で受容した光の情報が脳で処理されることによって視覚が生じることについて，錯視の実験を通して説明することができる。
	3. ヒトの生命現象と DNA			○	・血糖濃度やホルモンの分泌量の変化のグラフを読み取り，ホルモンによる血糖濃度の調節について考察することができる。(課題提出)
	7			○	・抗体による免疫の概要を理解し，予防接種の意義を説明することができる。(定期考査)
	9			○	・DNA における塩基の相補性を理解するとともに，DNA の塩基配列によってつくられるタンパク質のアミノ酸配列が決まることを理解している。(定期考査)
	4 章 光や熱の科学			○	・自然界に見られる熱に関する現象に関心をもち，意欲的に調べようとする。(授業態度)
第3学期	1 節 熱の性質とその利用			○	・エネルギーに関する科学技術に関心をもち，科学的な見方・考え方を身につけようとする。(授業態度)
	1. 熱			○	
	2. 熱の発生				
	3. エネルギーの変換と利用			○	・身の回りにある熱に関わる現象を見出し，熱の性質から科学的に思考し，熱を有効利用できるような判断ができる。(発問評価)
	特集 地球温暖化と身近な科学技術			○	・熱と温度とを区別でき，熱の性質をこれに関わる現象や研究から理解し，日常生活に適切に利用できる。(定期考査)
	10			○	・人間生活の中に，エネルギーに関する科学技術を見出すことができ，エネルギーが有効に利用されているかを総合的に判断して表現することができる。(発問評価)
	11			○	・熱量の保存や熱を，仕事や電流によって発生させる観察・実験の技能を習得し，その過程や結果を適切に表現できる。(課題提出)
	12			○	・発熱・吸熱反応や力学的エネルギーの変換などに関する観察・実験の方法・技能を習得し，結果や考察を的確に表現できる。(課題提出)
				○	・エネルギーの変換や，保存について理解している。また，その性質を利用して科学技術が発展したことを理解している。(定期考査)
	5 章 宇宙や地球の科学			○	・身近な自然景観や自然災害に関心をもち，意欲的に調べようとする。(授業態度)
第3学期	2 節 身近な自然景観と自然災害			○	・自然景観の成因や自然災害の起こる原因(要因)を理解し，災害リスクを減らすための，科学的な見方・考え方を身につけようとする。(授業態度)
	1. 身近な景観のなりたち				
	2. 地球内部のエネルギー	○	○		・身近な自然景観を適切に観察し，結果や考察を的確に表現できる。(課題提出)
	3. 自然の恵みと自然災害			○	・身近な自然景観の成因，日本列島の成り立ちを科学的に分析して，総合的に判断し，それを表現することができる。(発問評価)
	特集 地場産業と地学			○	・自然災害の起きる原因や条件を理解し，災害リスクを減らすための方法について総合的に判断し，それを表現することができる。(発問評価)
	特集 防災			○	

3	6 章 これからの科学と人間生活 (課題研究等)	○	○	・地震や火山のハザードマップなどを調査検討し、災害リスクを的確に表現できる。 (課題提出)
		○	○	・自然景観の成因や日本列島の成り立ちとその変化について理解し、自然景観の恩恵と自然災害のリスクを説明できる。(定期考査)
			○	・科学と人間生活の間に現在生まれている新しい課題に関心を持ち、具体例を考え、研究しようとする。(授業態度)
			○	・科学と人間生活に関する課題について具体例をあげ、その課題の研究を通して今後の科学研究や人間生活のあり方について考え、それを表現することができる。 (課題提出)
		○	○	・課題選択と研究方法の独創性や計画性、参考資料の使用や研究準備の適切さ、実験・調査・観察の技能や記録の正確さ、レポートの表現のわかりやすさ、発表の工夫(表・グラフ・コンピュータの使用)ができる。(課題提出)
		○		・課題研究から明らかにされた結果や関連する事項を理解できる。(課題提出)

学習到達度 ※(生徒)自己評価の例

①全くできなかった ②できなかった ③どちらともいえない ④良くてきた ⑤とても良くてきた

1 年 年間学習指導計画（学習内容・到達目標）

教科	保健体育	科目	体育	単位数	3 単位	対象学年	1 年
【到達目標】 1) 運動の合理的、計画的な実践を通して、知識を深めるとともに技能も高める。 2) 運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにする。 3) 自己の体力向上を図る能力を育て、公正、協力、責任、参画などの意識を高め、健康安全を確保し、生涯豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。 4) 武道では、伝統的な行動の仕方が重視されることを理解し、相手の動きに対応した攻防ができるようになる。					【知識・技能】 運動の合理的計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともにそれらの技能を身につけている。 【思考・判断・表現】 生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするための課題を発見し、合理的計画的な解決に向けて思考判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養っている。 【主体的に学習に取り組む態度】 運動における競争や協働の経験を通して公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養っている。		
【学習方法・心構え】 1) 運動に主体的に取り組み、ルールやマナーを大切にする。 2) 各運動で、記録の向上や競争の喜びを味わい、各種目の技能を高める。 3) 運動の方法、体力の高め方、課題解決の方法などを理解する。 4) 柔道・剣道は、相手との攻防の仕方、試合の仕方を学ぶと共に、相手を尊重し、礼儀正しく活動すること。 5) ルールを理解し、試合はもちろんのこと審判ができるレベルにまでなること。							

1年 保健 年間学習計画

項目名	学習のねらい	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
保健編 1単元 現代社会と健康				
1 健康の考え方と成り立ち	・さまざまな健康の考え方について例をあげて説明できる。 ・健康を成り立たせている要因について例をあげて説明できる。	・我が国の死亡率、受療率、平均寿命、健康寿命など各種の指標や疾病構造の変化を通して国民の健康課題について、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・健康水準、及び疾病構造の変化には、科学技術の発達、及び生活様式や労働形態を含む社会の関わり合いによって、理解したことを言ったり書いたりしている。	・健康の考え方について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。 ・国民の健康課題について、我が国の健康水準の向上や疾病構造の変化に関するデータや資料に基づいて分析し、生活の質の向上に向けた課題解決の方法をヘルスプロモーションの考え方を踏まえて整理している。	健康の考え方について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。
2 私たちの健康のすがた	・わが国の健康水準の変化とその背景について説明できる。 ・わが国の現在の健康問題について例をあげて説明できる。	・健康水準の向上、疾病構造の変化に伴い、個人や集団の健康についての考え方も変化してきていることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・免疫、遺伝、生活行動などの主要要因と、自然、経済、文化、保健・医療サービスなどの環境要因が互いに影響し合いながら健康の成立に関わっていることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。	・健康の考え方について、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明している。	
3 生活習慣病の予防と回復	・生活習慣病の種類と要因について説明できる。 ・生活習慣病の一次予防、二次予防について例をあげて説明できる。	・がん、脳血管疾患、虚血性心疾患、高血圧症、脂質異常症、糖尿病などを適宜取り上げ、これらの生活習慣病などのリスクを軽減し予防するには、適切な運動、食事、休養及び睡眠など、調和のとれた健康的な生活を続けることが必要であること、定期的な健康診断やがん検診などを受診することが必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。	・生活習慣病などの予防と回復について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。 ・生活習慣病などの予防と回復について、習得した知識を基に自他の生活習慣や社会環境を分析し、リスクの軽減と生活の質の向上に必要な個人の取組や社会的な対策を整理している。	生活習慣病とその予防について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。
4 がんの原因と予防	・がんの種類や原因について説明できる。 ・がんの一次予防と二次予防について例をあげて説明できる。	・がんは、肺がん、大腸がん、胃がんなど様々な種類があり、生活習慣のみならず細菌やウイルスの感染などの原因もあることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。	・がんの発生や予防について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。	
5 がんの治療と回復	・がんのおもな治療法や緩和ケアについて説明できる。 ・がん検診の普及や情報サービスの整備などの社会的な対策について説明できる。	・がんのおもな治療法や緩和ケアについて説明できる。 ・がん検診の普及や情報サービスの整備などの社会的な対策について説明できる。	・がんの発生や予防について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。	
6 運動と健康	・健康と運動の関係について説明できる。 ・目的に応じた健康的な運動のしかたについて例をあげて説明できる。	・健康と運動の関係について説明できる。 ・目的に応じた健康的な運動のしかたについて例をあげて説明できる。	・健康と運動の関係について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。	
7 食事と健康	・食事と健康の関係について説明できる。 ・健康的な食事のとり方について説明できる。	・食事と健康の関係について説明できる。 ・健康的な食事のとり方について説明できる。	・食事と健康の関係について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。	
8 休養・睡眠と健康	・健康と睡眠の関係及び健康によい睡眠のとり方について説明できる。	・健康と睡眠の関係及び健康によい睡眠のとり方について説明できる。	・健康と睡眠の関係について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。	
9 喫煙と健康	・喫煙者やその周囲の人々に起こる害について説明できる。 ・喫煙対策について、個人と社会に分けて例をあげて説明できる。	・喫煙や飲酒は、生活習慣病などの要因となり心身の健康を損ねること、喫煙や飲酒による健康課題を防止するには、正しい知識の普及、健全な価値観の育成などの個人への働きかけ、及び法的な整備も含めた社会環境への適切な対策が必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。	・喫煙、飲酒、薬物乱用の防止について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。	喫煙、飲酒、薬物乱用について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。
10 飲酒と健康	・飲酒による健康への短期的影響と長期的影響を説明できる。 ・飲酒による健康問題に対する個人や社会環境への対策について例をあげて説明できる。	・アルコール、MDMAなどの麻薬、覚醒剤、大麻、など、薬物の乱用は、心身の健康、社会の安全などに対して深刻な影響を及ぼすことから、決して行ってはならないことについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・薬物乱用を防止するには、正しい知識の普及、健全な価値観や規範意識の育成などの個人への働きかけ、及び法的な規制や行政的な対応など社会環境への対策が必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。	・飲酒、喫煙、薬物乱用の防止について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。	
11 薬物乱用と健康	・薬物乱用が心身の健康や社会に及ぼす影響について説明できる。 ・薬物乱用防止のための個人や社会環境への対策例をあげることができる。	・薬物乱用が心身の健康や社会に及ぼす影響について説明できる。 ・薬物乱用防止のための個人や社会環境への対策例をあげることができる。	・薬物乱用が心身の健康や社会に及ぼす影響について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。	
12 精神疾患の特徴	・精神疾患の例をあげ、発病の要因とおもな症状について説明できる。 ・現代社会における精神保健の課題をあげることができる。	・精神疾患は、精神機能の基盤となる心理的、生物学的、または社会的な機能の障害などが原因となり、認知、情動、行動などの不調により、精神活動が不全になった状態であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・うつ病、統合失調症、不安症、摂食障害などは、誰もが罹患しうること、若年で発症する患者が多いこと、適切な対処により回復し生活の質の向上が可能であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。	・精神疾患の予防と回復について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。	精神疾患の予防とその回復について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。
13 精神疾患の予防	・精神疾患を予防する方法について説明できる。 ・精神疾患の早期発見のために必要なことについて説明できる。	・精神疾患の予防と回復には、身体と心身の健康と同じく、適切な運動、食事、休養及び睡眠など、調和のとれた生活を実践すること、早期に心身の不調に気付くこと、心身に起こった反応については体ほぐしの運動などのリラクゼーションの方法でストレスを緩和することなどが重要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。	・精神疾患の予防と回復について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。	
14 精神疾患からの回復	・精神疾患の治療について例をあげて説明できる。 ・精神疾患の適切な治療や回復のためには、どのような社会環境が必要か説明できる。	・精神疾患の治療について例をあげて説明できる。 ・精神疾患の適切な治療や回復のためには、どのような社会環境が必要か説明できる。	・精神疾患の予防と回復について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。	
15 現代の感染症	・感染症とは何かについて潜伏期間や感染力なども含めて説明できる。 ・新興感染症と再興感染症が流行する要因をそれぞれ説明できる。	・感染症は、時代や地域によって自然環境や社会環境の影響を受け、発生や流行に違いが見られること、その際、交通網の発達により短時間で広がりやすくなっていること、また、新たな病原体の出現、感染症に対する社会の意識の変化等によって、腸管出血性大腸菌(O157)感染症、結核などの新興感染症や再興感染症の発生や流行が見られることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。	・現代の感染症とその予防について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。	現代の感染症とその予防について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。
16 感染症の予防	・感染症の予防対策について3原則から例をあげて説明できる。 ・感染症への個人と社会の対策について例をあげて説明できる。	・感染症の予防と回復には、身体と心身の健康と同じく、適切な運動、食事、休養及び睡眠など、調和のとれた生活を実践すること、早期に心身の不調に気付くこと、心身に起こった反応については体ほぐしの運動などのリラクゼーションの方法でストレスを緩和することなどが重要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。	・感染症の発生や流行について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。	
17 性感染症・エイズとその予防	・性感染症・エイズがほかの感染症と異なる点について説明できる。 ・性感染症・エイズの予防とその対策について個人と社会に分けて例をあげることができる。	・性感染症・エイズがほかの感染症と異なる点について説明できる。 ・性感染症・エイズの予防とその対策について個人と社会に分けて例をあげることができる。	・性感染症・エイズの予防とその対策について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。	
18 健康に関する意思決定・行動選択	・意思決定・行動選択に影響を与える要因について説明できる。 ・健康に関する適切な意思決定・行動選択の際の工夫について例をあげて説明できる。	・健康を保持増進するには、ヘルスプロモーションの考え方に基づき、適切な意思決定や行動選択により、疾病等のリスクを軽減することを含め、自らの健康を適切に管理することが必要であるとともに、環境づくりが必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。	・健康の考え方について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。	健康の考え方について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。
19 健康に関する環境づくり	・社会環境の健康への影響について例をあげて説明できる。 ・ヘルスプロモーションの考え方にもとづく環境づくりの特徴について説明できる。	・健康を保持増進するための環境には、自然環境、及び政策や制度、地域活動などの様々な社会環境があることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。	・健康の考え方について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。	
保健編 2単元 安全な社会生活				
1 事故の現状と発生要因	・事故の実態と被害の実態について説明できる。 ・事故の発生には、人間的要因と環境要因が関連していることについて例をあげて説明できる。	・事故は、地域、職場、家庭、学校など様々な場面において発生していること、事故の発生には、周りの状況の把握及び判断、行動や心理などの人的要因、気象条件、施設・設備、車両、法令、制度、情報体制などの環境要因などが関連していることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。	・安全な社会づくりについて、安全に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。	安全な社会づくりについて、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。
2 安全な社会の形成	・安全のために必要な個人の行動について例をあげて説明できる。 ・すべての人たちの安全を確保するために必要な環境整備について例をあげて説明できる。	・事故を防止したり事故の発生に伴う被害等を軽減したりすることを目指す安全な社会の形成には、交通安全、防災、防犯などを取り上げて、法的な整備などの環境整備、環境や状況に応じた適切な行動などの個人の取組、及び地域の連携などが必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。	・安全な社会づくりについて、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。	
3 交通における安全	・交通事故防止における個人の取り組みと交通環境の整備について例をあげて説明できる。 ・交通事故における責任を3つに分けて説明できる。	・交通事故を防止するには、自他の生命を尊重するとともに、自分自身の心身の状態や周りの環境、車両の特性などを把握すること、及び個人の適切な行動、交通環境の整備が必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。	・交通安全について、習得した知識を基に、事故につながる危険を予測し回避するための自他や社会の取組を評価している。 ・安全な社会づくりについて、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明している。	
4 応急手当の意義とその基本	・応急手当の意義について説明できる。 ・傷病者を発見したときに、確認・観察するポイントをあげることができる。	・適切な応急手当は、傷害や疾病の悪化を防いだり、傷病者の苦痛を緩和したりすることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・自他の生命や身体を守り、不慮の事故災害に対応できる社会をつくるには、一人一人が適切な連絡・通報や避難も含む応急手当の手順や方法を身に付けるとともに、自ら進んで行う態度が必要であること、さらに、社会の救急体制の整備を進めること、救急体制を適切に利用することが必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。	・応急手当について、安全に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。 ・応急手当について、習得した知識や技能を事故や災害で生じる傷害や疾病に関連付けて、悪化防止のための適切な方法に活用している。 ・応急手当について、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明している。	応急手当について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。
5 日常的な応急手当	・日常的なけがや熱中症の応急手当の手順や方法について説明できる。 ・実際に、日常的なけがや熱中症の応急手当ができる。	・日常生活で起こる傷害や、熱中症などの疾病の際には、それに応じた位位の確保・止血・固定などの基本的な応急手当の方法や手順があることを、実習を通して理解し、応急手当ができるようにする。	・日常的なけがや熱中症の応急手当の手順や方法について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。	
6 心肺蘇生法	・心肺蘇生法の方法と手順について説明できる。 ・実際に、心肺蘇生法をおこなうことができる。	・心肺停止状態においては、急速に回復の可能性が失われつつあり、速やかな気道確保、人工呼吸、胸骨圧迫、AED(自動体外除細動器)の使用が必要であること、及び方法や手順について、実習を通して理解したことを言ったり書いたりし、AEDなどを用いて心肺蘇生法ができる。	・心肺蘇生法の方法と手順について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。	

科 目	音 楽 I	学 年	1 年	単位数	2 単位
学習の到達目標	(1) 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。 (2) 自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができるようにする。 (3) 主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。				

【使用教材】

教科書・副教材
教育芸術社『MOUSA 1』 九州高等学校音楽教育研究会編『MUSIC NOTE』 ヤマハ音楽振興会『Classic Guitar Course Vol.1』

【目指す能力と評価について】

★は川内高校グランドデザイン(育てたい資質・能力)との結びつき

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点	・曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解している。 ・創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作で表している。	音楽を形作っている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感じしながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように表すかについて表現意図をもったり、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴いたりしている。	主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。
評価方法	授業や課題への取り組み 提出物の内容 実技試験		
★	探求力・多様な個性を尊重する態度・コミュニケーション力・実行力	探求力・思考力・実行力	探求力・思考力・実行力・俯瞰力・コミュニケーション力

【学習内容】

【アドバイス】

学期	月	学習内容等	
1 学期	4	【歌唱】校歌, イタリア歌曲	・定期考査を実施しない為、授業での取り組みや、提出物・実技試験等が評価の基準となる。積極的に活動に取り組むこと。
	5	【器楽】ギター基本奏法, コード	
	6		
	7		
2 学期	9	【歌唱】日本歌曲, オペラの世界	
	10	【器楽】ヴァイオリンに親しむ	
	11	【創作】リズム, 旋律等	
	12	【鑑賞】オペラ《カルメン》, 動物の謝肉祭	
3 学期	1	【歌唱】合唱, ヴォイス・アンサンブル	
	2	【器楽】アンサンブル(器楽・リズム等)	
	3	【鑑賞】日本の伝統音楽(雅楽, 能, 文楽, 歌舞伎)	
			※各単元の学習内容や評価の詳細については、後日示します。

科 目	美術 I	学 年	1 年	単位数	2 単位
学習の到達目標	美術の幅広い創造活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。 (2)造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識を持って美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができる。 (3)主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。				

【使用教材】

教科書・副教材
高校生の美術 1 (日本文教出版)

【目指す能力と評価について】

★は川内高校グランドデザイン(育てたい資質・能力)との結びつき

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点	- 造形の要素の働きを理解している。 - 造形的な特徴を基に、全体のイメージや作風、様式などで捉えることを理解している。 - 意図に応じて表現方法を創意工夫し、主題を追究して創造的に表している。	- 造形的なよさや美しさを感じ取り考えたこと、夢や想像などから主題を生成している。 - 表現形式の特性を生かし、形体や色彩、構成などについて考え、創造的な表現の工夫を練っている。 - 美術の働きについて考え、見方や感じ方を深めている。	- 主体的に絵画・彫刻、デザインの表現の創造活動に取り組もうとしている。 - 主体的に作品や美術文化の鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。
評価方法	- 授業や課題の取り組み・ルーブリック評価表を使った自己評価 - 課題作品及び毎時間ごとの振り返りの提出 - 基礎的課題作品・アイディアスケッチ - 鑑賞活動		
★	探究力・実行力・俯瞰力	思考力・自己肯定感・コミュニケーション力	探究力・多様な個性を尊重する態度 実行力

【学習内容】

【アドバイス】

学期	月	学習内容等
1 学期	4	・オリエンテーション
	5	・【デザイン】レタリングの基礎を学ぶ スケッチブックの表紙をデザインする
	6	・【絵画】クロッキー、デッサンの魅力を知ろう
	7	・【色彩学】色の見える仕組み、明度・彩度等の仕組みを知ろう
2 学期	8	・【デザイン】軽羹饅頭のパッケージデザインの考察・制作
	9	
	10	・【彫刻】滑石による立体造形 ペーパーウェイトの制作
	11	
3 学期	12	・【絵画】静物画の制作 ～油彩に慣れ親しむ～
	1	
	2	
	3	・【鑑賞】郷土出身の芸術家の紹介 ・美術 I まとめ

定期考査を実施しないため、授業での制作活動や課題提出等が評価の基準となる。積極的に活動に取り組むこと。
(進度に不安がある場合、放課後等を活用し、制作してもよい)

※各単元の学習内容や評価の詳細については、後日示します。

科 目	書 道 I	学 年	1 年	単位数	2 単位
学習の到達目標	書道の幅広い活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けるようにする。 (2) 書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書的美を味わい捉えたりすることができるようにする。 (3) 主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。				

【使用教材】

教科書・副教材	課題帳等
書 I (光村図書)	補助プリント

【目指す能力と評価について】

★は川内高校グランドデザイン(育てたい資質・能力)との結びつき

	知識及び技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習する態度
評価の観点	書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けるようにする。	書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書的美を味わい捉えたりすることができるようにする。	主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造しようとしている。
評価方法	・授業や課題の取り組み ・積極的な鑑賞活動 ・提出作品 ・ワークシート等の記入状況		
	探求力・思考力・実行力	探求力・思考力・コミュニケーション力	探求力・実行力・多様な個性を尊重する態度

【学習内容】

【アドバイス】

学期	月	学習内容等	
1 学期	4	漢字仮名交じりの書 硬筆（封筒の書き方）	○定期考査を実施しないため、授業態度と作品制作の取り組み状況等が評価の基準となる。 ○主体的な態度で授業に取り組み、古典や古筆の理解度を高められるよう努めること。 ○古典や古筆の臨書を通して感性を養い、創造力を働かせ、創作活動に活かせるよう努めること。
	5	漢字の書 導入	
	6	漢字の書	
	7	古典の臨書（楷書）	
2 学期	9	漢字の書 古典の臨書（楷書） 漢字仮名交じりの書 （硬筆展への取り組み）	
	10	篆刻	
	11	漢字の書 古典の臨書（行書）	
	12	生活の中の書 年賀状を書こう	
3 学期	1	生活の中の書 カレンダーに文字を書いてみよう	
	2	仮名の書	
	3	古筆の臨書 創作（古筆による創作、鑑賞）	

※各単元の学習内容や評価の詳細については、後日示します。

科 目	英語コミュニケーションⅠ	学 年	1 年	単位数	4 単位
学習の到達目標	2年で自分が思ったように英語を使えるようになるための基礎固め				
	知識・技能				
	(1) 中学校で学んだ文法や語法を話したり書いたりするときに使うことができる。				
	(2) 教科書の本文を日本語を媒介せずに読むことができる。				
	(3) 単語帳も使いながら、新しく学んだ英単語や連語の意味を覚える。				
	思考・判断・表現				
	(1) 教科書の本文の内容を相手が理解できることを意識してリテリングしている。				
	(2) パフォーマンステストのテーマを理解して自分の考えを表現している。				
	(3) テーマと相手の発言の意図を理解して対話をしている。				
	主体的に学びに取り組む姿勢				
	(1) 粘り強く英単語を覚えるなど継続的に学習する。				
	(2) 前のレッスンで見つけた課題に対して工夫して次のレッスンで取り組む。				
	(3) テストを目標に計画的に準備を進める。				
	その他				
	(1) 英検や英語コンテストなどに積極的に応募・参加する。				
	(2) ICTを積極的に使える基本的スキルを身につける。				

【使用教材】

教科書・副教材	課題帳等
『Heartening English Communication I』（桐原書店）	参考書と英単語帳は共通のものを使用します。

【目指す能力と評価について】

★は川内高校グランドデザイン(育てたい資質・能力)との結びつき

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点	- 英語の単語や音声、文法に対して正確な知識を持っている。 - 実際のコミュニケーション場面を想定した聞く、読む、話す、書く活動で、英語を適切に活用できる。	- 授業で学んだ知識を使って英語活動をしている。 - 話題や状況(日常・社会)に応じた英語活動をしている。 - 中学校での経験を活かしながらパフォーマンステストの課題に対して英語を使っている。	- 授業で学んだ知識を使って英語活動しようとしている。 - 話題や状況に応じた英語活動をしようとしている。 - 中学校での経験を活かしながらパフォーマンステストの課題に対して英語を使おうとしている。
方 法 評 価	a. パフォーマンステストなど各レッスンの評価問題 c. 課題・ノート等の提出	b. 定期考査・小テスト d. 授業や課題に取り組む姿勢	
★	探究力	思考力・コミュニケーション力	実行力・俯瞰力

【学習内容】

学期	月	学習内容等	主な考査
1 学期	4	Lesson 1 Bringing Out the Best in Himself	学びの基礎診断 (スタディーサポート) 1 学期中間考査 1 学期末考査
	5	Lesson 2 Hold on, Anzu!	
	6	Lesson 3 We Can Make a Difference	
	7	Lesson 4 Creative Problem Solving	
2 学期	9	Lesson 5 Canned Bread to Feed the World	第2回実力考査 2 学期中間考査 学びの基礎診断 (進研記述模試) 2 学期末考査
	10	Lesson 6 Could We Have a Real Jurassic Park?	
	11	Lesson 7 Behind the Price Tag	
	12		
3 学期	1	Lesson 8 The World's Winter Festivals	第3回実力考査 学年末考査
	2	Lesson 9 Talking Trees	
	3	Lesson 10 Capturing the Reality of the World	

【アドバイス】

英語学習法(自学自習の態勢)を確立するために

- 1 毎日、1～2時間程度の学習時間を確保し、可能な限り多くの英文を読む、聞く。
- 2 未知の語はすぐに辞書を引くのではなく、まず推測する。その後、辞書を引いて確認。
- 3 授業で疑問点を解決するつもりで予習をし、授業後に復習・習得。

科 目	論理表現 I	学 年	1 年	単位数	2 単位
学習の到達目標	「話すこと・書くこと」の基盤を、英語を使いながら身につける 知識・技能 (1) 中学校で学んだ文法や語法を話したり書いたりするときに使うことができる。 (2) スピーチやディスカッションなどの話し方を理解している。 (3) 場面や状況を理解した上で学んだ知識を使うことができる。 思考・判断・表現 (1) 学んだ話し方・書き方を応用して与えられた場面で使用している。 (2) パフォーマンステストのテーマを理解して自分の考えを表現している。 (3) テーマと相手の発言の意図を理解して対話をしている。 主体的に学びに取り組む姿勢 (1) 授業での英語を使った活動に向けての準備や振り返りをしている。 (2) 前のレッスンで見つけた課題に対して工夫して次のレッスンで取り組む。 (3) テストを目標に計画的に準備を進める。 その他 (1) 英検や英語コンテストなどに積極的に応募・参加する。 (2) I C T を積極的に使える基本的スキルを身につける。				

【使用教材】

教科書・副教材	課題帳等
『be English Logic and Expression I Smart』（いいずな書店）	参考書と英単語帳は共通のものを使用します。

【目指す能力と評価について】

★は川内高校グランドデザイン(育てたい資質・能力)との結びつき

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点	- 英語の単語や音声、文法に対して正確な知識を持っている。 - 実際のコミュニケーション場面を想定した話す、書く活動で、英語を適切に活用できる。	- 授業で学んだ知識を使って英語活動をしている。 - 話題や状況(日常・社会)に応じた英語表現をしている。 - 中学校での経験を活かしながらパフォーマンステストの課題に対して英語を使っている。	- 授業で学んだ知識を使って英語活動をしようとしている。 - 話題や状況に応じた英語表現をしようとしている。 - 中学校での経験を活かしながらパフォーマンステストの課題に対して英語を使おうとしている。
方 法 評 価	a. パフォーマンステストなど各レッスンの評価問題 c. 課題・ノート等の提出		b. 定期考査・小テスト d. 授業や課題に取り組む姿勢
★	探究力	思考力・コミュニケーション力	実行力・俯瞰力

【学習内容】

学期	月	学習内容等	主な考査
1 学期	4 5 6 7	中学校で学んだ英語表現を使って話したり書いたりする。 1st Zone (LESSON 1 -5) 自分のことや身近な人のことについて話したり書いたりする。【レシテーション Show & Tell】	学びの基礎診断 (スタディーサポート) 1 学期末考査
2 学期	9 10 11 12	2nd & 3rd Zone (LESSON 6 -15) 日常生活をテーマに、自分の考えや他者の意見を使って話したり書いたりする。 【スピーチ スキット ディスカッション】	第2回実力考査 2 学期中間考査 学びの基礎診断 (進研記述模試) 2 学期末考査
3 学期	1 2 3	4th & 5th Zone (LESSON 16 -23) 様々なテーマ（これからの自分や社会のこと）について、客観的なデータとともに考えを表現する。 【ディスカッション マイクロディベート】	第3回実力考査 学年末考査

【アドバイス】

英語学習法(自学自習の態勢)を確立するために

- 1 毎日、1～2時間程度の学習時間を確保し、可能な限り多くの英文を読む、聞く。
- 2 未知の語はすぐに辞書を引くのではなく、まず推測する。その後、辞書を引いて確認。
- 3 授業で疑問点を解決するつもりで予習をし、授業後に復習・習得。

科 目	家庭基礎	学 年	1 年	単位数	2 単位
学習の到達目標	生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を育成することを目指す。				

【使用教材】

教科書・副教材
教育図書『未来へつなぐ家庭基礎 3 6 5』 教育図書『未来へつなぐ家庭基礎 3 6 5 マスターノート』 他

【目指す能力と評価について】

★は川内高校グランドデザイン(育てたい資質・能力)との結びつき

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点	生活を主体的に営むために必要な人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活、環境などの基礎的なことについて理解しているとともに、それらに係わる技能を身に付けている。	生涯を通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を創造し、実践しようとしている。
評価方法	・授業や課題・実習に取り組む姿勢 ・製作物や課題レポート、ワークシート、学習ノート等の提出物 ・定期考査（年3回）、実技テスト（被服分野・食物分野・保育分野）		
★	探求力，健康増進力	思考力，実行力，俯瞰力	コミュニケーション力，社会貢献，多様な個性を尊重する態度，自己肯定感

【学習内容】

【アドバイス】

学期	月	学 習 内 容 等	主な評価内容	
1 学期	4	オリエンテーション		・忘れ物をしない。 ・提出期限を守る。 ・製作物は必ず提出する。 ・実技テストで包丁使いや手縫いの技術を見ます。日頃から包丁や針を持つ機会を作りましょう。 ・ニュースを視聴する習慣を持ち、社会の動きに興味・関心を持ちましょう。
	5	A編 第1章 生涯の生活設計 1		
	6	第2章 青年期の自立と家族・家庭		
	7	B編 第2章 衣生活と健康	実技試験（被服） 期末考査 ホームプロジェクト 実技試験（保育）	
2 学期	9	A編 第3章 子どもの生活と保育		
	10	ホームプロジェクト		
	11	B編 第1章 食生活と健康	実技試験（食物）	
	12	<調理実習3回> 第3章 住生活と住環境	期末考査	
3 学期	1	C編 第1章 生活における経済の計画		
	2	第2章 消費生活と意思決定		
	3	C編 第3章 持続可能なライフスタイルと環境	学年末考査	
	3	A編 第4章 高齢期の生活と福祉	※毎時間のワークシート，单元ごとの振り返りシート	
		第5章 共生社会と福祉		
		生涯の生活設計 2		

※各単元の学習内容や評価の詳細については，後日示します。

科 目	情報 I	学 年	1 年	単位数	2 単位
学習の到達目標	(1) 効果的なコミュニケーションの実現，コンピュータやデータの活用について理解を深め技能を習得するとともに，情報社会と人との関わりについて理解を深めるようにする。 (2) 様々な事象を情報とその結び付きとして捉え，問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力を養う。 (3) 情報と情報技術を適切に活用するとともに，情報社会に主体的に参画する態度を養う。				

【使用教材】

教科書・副教材
東京書籍『情報 I Step Forward!』 東京書籍『情報 I 学習ノート』 他

【目指す能力と評価について】

★は川内高校グランドデザイン(育てたい資質・能力)との結びつき

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点	効果的なコミュニケーションの実現，コンピュータやデータの活用について理解し，技能を身に付けているとともに，情報社会と人との関わりについて理解している。	事象を情報とその結び付きの視点から捉え，問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に用いている。	情報社会との関わりについて考えながら，問題の発見・解決に向けて主体的に情報と情報技術を活用し，自ら評価し改善しようとしている。
評価方法	授業や課題・実習に取り組む姿勢 課題・提出物の内容 定期考査(年3回)(予定)		
★	探求力・コミュニケーション力	探求力・思考力・実行力	探求力・思考力・実行力・俯瞰力

【学習内容】

学期	月	学習内容等
1 学期	4	1章 情報社会
	5	実習 情報に関わる法律や犯罪について
2 学期	6	2章 情報デザイン1
	7	コミュニケーションとメディア メディアの文化の発展～コンテンツ設計 実習 プレゼンテーション(PowerPoint)の作成と発表
	9	3章 プログラミング
	10	実習 プログラム作成
	11	4章 ネットワークの活用1
3 学期	12	ネットワークの仕組みについて
	1	2章 情報デザイン2 文字・音・画像のデジタル表現 実習 デジタル表現に関わる数値計算
	2	4章 ネットワークの活用2 データベース データ分析 実習 データ分析
	3	

※各単元の学習内容や評価の詳細については，後日示します。